

文 教 福 祉 常 任 委 員 会 記 録

令和2年7月29日(水)午前9時57分～午前10時36分(9階909会議室)

○出席委員(9名)

委員長	萩原 太郎
副委員長	沢井 和宏
委員	山田 裕
委員	斎藤 正臣
委員	佐原 真紀
委員	二階堂利枝
委員	小野 京子
委員	粕谷 悦功
委員	半沢 正典

○欠席委員(なし)

○案 件

所管事務調査 「健都ふくしま」実現に向けた健康づくりの取り組みに関する調査

- (1) 委員長報告について
- (2) その他

午前9時57分 開 議

(萩原太郎委員長) ただいまから文教福祉常任委員会を開会いたします。

本日の議題は、お手元に配付の次第のとおりです。

初めに、委員長報告についてを議題といたします。

前回の委員会におきまして委員長報告の素案をご提示させていただきまして、その素案に対して委員の皆様からご意見を頂戴いたしました。本日は、委員の皆様からいただいたご意見を反映させていただいた上で、正副委員長手元におきまして委員長報告最終案を作成いたしました。お手元に配付しておりますので、御覧ください。

それでは、委員長報告最終案について、素案からの修正点を簡単に説明させていただきたいと思っております。まず、1ページでございますが、配付の資料のとおりです。二重線を引いておりますところを

語句だけ直させていただきました。題のほうを見ていただきますと、取組についてというふうなことでありますが、最近の取組というふうな送り仮名については送り仮名なしの2文字の取組というふうなものになっているのが通例であるというふうなことから、その取組というふうな語句をこの漢字2文字に直させていただいたところでもあります。

それから、1ページの4行ですけれども、全国平均より高いというふうなことを、もっと厳しい状況にあるというふうなところで、全国でも非常に高い本市の現状を喫緊の課題と捉えというふうに直させていただいたところでもあります。

それから、回数のほうも、このままいきますと合計11回というふうなことで、数字のほうを11回と入れさせていただきました。

次に、2ページの35行を御覧いただきたいと思いますが、これも、このような現状の中というふうな、中を平仮名から漢字の中に訂正をさせていただいております。

次に、3ページの67行を御覧いただきたいと思いますが、前回までは平成27年度においてはというふうなことでありました。資料を見直しましたところ、平成27年度の資料ではありますけれども、それを統計を取ったのが平成28年度というふうなことで、正式には、その資料の集計をした年度が平成28年度ということでありましたので、平成28年度においてはというふうな部分で、数字、27から28と直させていただいたところでもあります。

それから、5ページの110行であります。平成28年の死亡原因についてはというふうなことに年度を入れさせてもらいました。これは、市の資料に平成28年というふうに入っておりますので、今まで入れていなかったのですけれども、平成28年の資料というふうなことで、年を入れたというふうなことであります。

それから、5ページの一番下の部分になりますけれども、少し網かけになっております。一人一人の健康を応援する環境づくり、そして裏のほうに行って、地域の健康づくり、職場の健康づくりの3つの大きな施策の柱というふうなことで直させていただきました。これは、健都ふくしまの創造事業の市の3本柱というふうなところでちょっと前回の表現、内容は合っていますけれども、表現的に当局のほうからこのような表現のほうが適切であるという話がありましたので、直させていただいたところでもあります。

それから、6ページ、123行ですけれども、健康寿命をのぼそう！アワードというふうなところで、アワードを片仮名表記にしました。語句の訂正であります。

それから、7ページに入っていきますけれども、7ページは159行になります。健康づくりの実践のためにというふうなことで、実現を実践のためにというふうなことに変更させてもらいました。これは、ずっと、上の行に当委員会として本市の目指す健都ふくしまの実現に向けた健康づくりの実現というふうなことで実現が2つ続いていますし、実現というよりは健康づくりの実践のほうが適切であろうというふうな内容で、実践というふうなことにさせていただいております。

それから、8ページ、169行になっていますけれども、マイレージアプリを活用するというふうなことに訂正をさせていただいております。以前のものは、マイレージアプリを作成するというふうな、作成ではなくて活用することはということで、活用させていただいております。

それから、175行からの網かけの部分になります。健康無関心層はもとよりというふうなところで、8ページの提言というふうなところで、小野委員のほうから健診の充実というような部分のご提案ありました。しかし、正副で検討もしましたけれども、提言全体の整合性、そしてまた健診ということは現実的に審議されていなかったというふうなことで、小野委員ともお話をしましたけれども、小野委員より了承を得ましたので、健診の充実というところは入れないというふうなことにさせていただいております。

また、8ページについて、佐原委員から体と身体というふうな漢字の使い分けというふうなことでは、前回もこのままでよいというふうなことでも本人が了承されておりますので、体というふうな部分で使っております。

それから、9ページ、生活というふうな部分で、生活、そしてまた市民生活というふうなことであるので、1つその生活という文言を削除したというふうな内容になっております。

次は、10ページの227行のところに二重を線引いております。健都ふくしまの実現に向けた健康づくりの実践のためにはと、先ほどもお話ししましたように、実現、実現となっていましたところを実践というふうな形に直させていただいております。

あと、10ページの上、216行、働き盛り世代にとってというふうなことでした。前回は、そのところは、頻繁に利用する若い世代や働き盛り世代に、立ち寄ったついでに、というふうなことで、とってという部分がなかったのですけれども、働き盛り世代にというふうなところを働き盛り世代にとってというふうなことで、とってという部分をつけております。そのところ、その二重線というのはそういう意味でつけておりました。

そのようなことを直させていただいたものですから、もう一度お読みいただく時間を取りたいと思っております。通して読んでいただいて、皆さんからまたご意見いただければというふうに思いますので、10分程度読んでいただいてよろしいでしょうか。

【資料黙読】

(萩原太郎委員長) そろそろよろしいですか。

それでは、委員の皆様からご意見をいただきたいと思えます。何かお気づきの点ございますか。

(二階堂利枝委員) すごく細かいことなのですけれども、ちょっと勘違いしていたら申し訳ないのですが、1ページで15行目、ここに取り組みというのがあるのですけれども、この取り組みは取り取らなくていいのですか。

(書記) 名詞の取組と動詞の取り組みの違いとなります。

(粕谷悦功委員) 大体これ出てくるのだ、取り組みと。取り組みと出てくるのは、それも取組という

漢字で、熟語で出てくるのだらうけれども、変化したりすると、取り組みと大体出てくるのだよな。だから、それが取組というふうになんて最近なってきたということだからこう換えたのだらうけれども。

(萩原太郎委員長) でも、その取り組むとか取組とか、結局どうなるのですか、これ。

(書記) 今回の訂正部分につきましては、名詞としての取組というところの送り仮名を省くというのが用字用例上の最近のルールとなっていてございまして、それで換えさせていただいたのですが、今ほどの指摘の部分ですと、取り組むという動作として、動詞の部分での取り組みでございましたので、そのまま残したというような形となっていてございます。

なお、その送り仮名の部分だけ確認させていただければと思うのですが、よろしいでしょうか。

(萩原太郎委員長) はい。

(書記) 再度確認させていただき、結論としましては先ほど申し上げたとおりとなりまして、名詞のときには送り仮名、今まで入っていたような部分は省かせていただくといえますか、漢字だけの取組というような2文字になっておりまして、あと動詞的に使うときには送り仮名が入るところがあくまで会議録、我々調製させていただく中での用字用例の使い方というところに寄せた表現でしかないというのが正直なところではございます。あとは、実際委員長報告として、今文字としてお手元に配付させていただいているのですが、会議録として載る場合ですと、その辺を含めて全体的にその会議録のルールにのっとった形で一部直ってくるというところは本日のところ以外にも出てくる可能性というのはございます。ただ、今の時点でその取組の部分、可能な限りその用字用例の現状のルールに合わせて直させていただいたというのが今お手元の委員長報告の案となっております。

以上です。

(萩原太郎委員長) 分かりました。そうしますと、1ページの15行だけですか。この送り仮名というのは。あともっと。

(沢井和宏委員) もう一か所ぐらいありました。

(萩原太郎委員長) もう一か所か、あったっけか。

(沢井和宏委員) 結構ありますね。

(萩原太郎委員長) ありますね。動詞としてのね。だから、名詞としてと、動詞としてということ。もし会派の中でそのような指摘がありましたら、名詞と動詞の使い分けをしているというふうに説明願います。

(粕谷悦功委員) 今までもこんなに分けていたのか。用字用例というのは、これ何、その議会関係とか公務員が使うときだけの、そういう例集なのか。万国共通、通用するやつなの。

(書記) 会議録の調製の際に大本となるルールがございまして、その辞典となっているものがあるのですが、随時更新される内容というのがございまして、最近の最新版になりまして初めて取組というところでその名詞の部分で送り仮名の平仮名が入らなくなりました。

(粕谷悦功委員) それは、公文書に限ってそういうふうになっているということか。一般の人はそん

なこと必要ないの。

(書記) 今把握している限りではございますが、こういった公式な記録で残す際というところだと、新聞のほうは新聞のほうでまた違っていたりということがあるかもしれないのですが、市議会を含めまして、国もそうなのですが、会議録として残す際の文字のルールとして用字用例のルールというものに基づいて作業しております。

(萩原太郎委員長) ほかにございませんか。

(山田 裕委員) ちょっと気になったのですけれども、10ページの真ん中で二重線引いてある実現に向けた健康づくりの実践のためにはと訂正したということですが、その後にもまた実践することが重要でありますと出てくるのです。実践するためには実践することが重要だという文章になっているので、ちょっとおかしいというふうに思いますので、例えば健康づくりのためにはというふうに二重線を換えたらいかがでしょうか。

(萩原太郎委員長) 健都ふくしまの実現に向けた健康づくりのためには、あと最後に実践する。どうですか。皆様のご意見もお伺いしたいと思います。

(斎藤正臣委員) 今のご指摘を入れるのであれば、多分実現のためにはというふうに二重線はなるのではないかなと、229行目の実践と言葉があるではないですか。そこを健康づくりの、組み合わせて健康づくりの実践というふうなことになる。多分文章の意味はそういう感じになると。健康づくりの実践をすることが重要でありますというふうになるのではないかなと思いました。

(萩原太郎委員長) そうすると、文、続けていくとどういうふうになりますか。

(斎藤正臣委員) 二重線のちょっと前から言うと、健都ふくしまの実現のためには、あと個別的な云々というふうになって、229行までずっと行って、有効な施策を組み合わせると健康づくりの実践をすることが重要であります。ということだと意味は変わらないと思いますけれども。

(山田 裕委員) 健都ふくしまを実現させるというのがここで強調しているところなのでしょう。

(斎藤正臣委員) だから、健都ふくしまの実現のためにはということで、その後の文章に全てかかっていくということになる。

(萩原太郎委員長) 健都ふくしまの実現のためには、あと個別的なまで行ってしまうのでしょうか。

(斎藤正臣委員) そのままですね、その後は。

(萩原太郎委員長) 健都ふくしまの実現のためには、個別的な施策の取組だけでは……

(斎藤正臣委員) 個別的な施策の取組だけでは困難であり、短期的、長期的な視点の下、有効な施策を組み合わせると健康づくりの実践をすることが重要であります。変ですかね。

(半沢正典委員) これ最後のまとめというか、最後のコアなところですね。表題は、健都ふくしま実現に向けた健康づくりの取組に関する調査でしょう。ということは、これを使わなければ駄目なのでしょうね、まとめとしては。というと、やっぱり山田さんが言ったやつになってしまう。健康づくりのためにはにして。

(粕谷悦功委員) 委員長、副委員長で何でこうしたのだ。こんな実践と並んでいるけれども、後ろは実践ではなくて、合わせて取り組むにすれば、別に何も問題ないのでしょう。実践といたって取り組むと、取り組むことが重要であるというふうにすれば何も問題ない話であって。

(萩原太郎委員長) 実践に取り組むとする。

(粕谷悦功委員) 取り組むことが重要であります。組み合わせて取り組むことが重要であるというようにすれば、実践って取り組むでしょう。同じことを言っているのだけれども、別に、換えるのであれば取り組むというふうにすればいいだけではないかな。

(斎藤正臣委員) 賛成です。

(萩原太郎委員長) 粕谷委員の話ですと、その実践に取り組むだけに直すだけでよろしいですか。

(粕谷悦功委員) 直せば問題ないでしょう。有効な施策を組み合わせると取り組むことが重要であるということ。

(萩原太郎委員長) その部分を読みます。健都ふくしまの実現に向けた健康づくりの実践のためにはということで、ずっと来て、取り組むことが重要であります。なるほど。

皆さんからも何かご意見を伺いたいと思います。ここ大事なところだと思います。

(小野京子委員) 今粕谷委員言われたように、有効な施策に取り組むでいいと思います。

(萩原太郎委員長) 意味はほとんど同じだというふうに思っていますから、いいと思いますけれども。山田委員はどうですか。実践に取り組むというふうに直すということに対して。

(山田 裕委員) それでもいいと思います。個別的な施策の取組だけではなくて、有効な、組み合わせると取り組むことが必要なのだというようにつながれば。

(萩原太郎委員長) ということでよろしいですか。

では、そのように実践に取り組むというふうなことに訂正させていただきます。

ほかに。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(萩原太郎委員長) では、このようなところでよろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(萩原太郎委員長) それでは、委員長報告最終案につきましてはそのようにいたしたいと思います。

それでは、この直したものを会派に持ち帰っていただくようになるのですが、どうしましょう。すぐにこれを直して、皆さん会派持ち帰り用として調製できるにどの程度の時間がかかりますか。それとも、レターケースの中に、また緊急会議とかもございますし、来る機会もたくさんあるかと思いますが、レターケースの中に入れてさせていただいてよければ、そのようなことで対応させていただいてよろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(萩原太郎委員長) では、そのようなことで、事務局のほうでこの部分を直していただいて、レタ

一ケースに入れさせていただきます。

次に、その他として、委員の皆様から何かございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(萩原太郎委員長) なければ、以上で文教福祉常任委員会を終了いたします。お疲れさまでございました。

午前10時36分 散 会

文教福祉常任委員長 萩 原 太 郎